



本書ではボルヘス、コルタサル、フエンテスなどの有名どころから（今や皆亡くなってしまう）、日本では比較的マイナーであった作家たちまでの（復刊までの間に彼らの

# トラクターが掘り起こしたものは

▼トラクターの世界史——人でなかったタイトルの本では類の歴史を変えた「鉄の馬」ないか。オビに「人類の歴史たち」▼藤原辰史 ありそうを根底から変えた」とある。



「人類の歴史を根底から変えた」ものは、例えば言語、印刷術、蒸気機関、原子力などが挙げられるだろうが、そこに「トラクター」も入るといふのだ。本書を通読すると、それがよくわかる。何となく私たちがいままで知っていると思っていた「世界史」とは一体何だったのかと再考せざるをえない。

時間のない向きは終章「機械が変えた歴史の土壌」だけでも通読してほしい。ここに至って、トラクターは「人類の歴史」のみならず、当然ながら「土壌」も、そして「歴史」の「土壌」も、根底から、つまり上と下を文字通りひっくり返してしまったことがわかる。（9・25刊、二八二頁・本体八六〇円・中公新書）